

【参議院国交委】足立敏之議員「未来に禍根残さぬ抜本的治水対策を」



抜本的な治水対策を求める足立議員

足立敏之参議院議員（自民党）は30日の参院国土交通委員会で質問に立ち、7月の豪雨で甚大な被害が生じた熊本県の球磨川における抜本的な治水対策の必要性を訴えた。足立議員は川辺川ダム建設事業が中止に至った経緯を説明した上で「今後さらに地球温暖化に伴う水害が激甚化することを考えると、被害の大きかった人吉市や球磨川沿いのまちの再生と併せて、川辺川ダムを含めて抜本的な治水対策を進めるべきだと考える」とし、赤羽一嘉国土交通大臣の見解を求めた。

赤羽大臣は、近年相次ぐ豪雨災害に触れながら「明らかに従来の常識を超えるような気候変動によって災害規模が甚大化し頻発化している」とし、再度災害の防止に向け「上流・下流、本川・支川、流域全体を俯瞰しながら『流域治水』として住民の命と暮らしを守ることに資する抜本的な対策を講じなければいけないと思っている。県と連携しながら腰を据えて取り組む」と答弁。足立議員は「ぜひとも県としっかり連携し、未来に向けて禍根を残さない抜本的な治水対策を進めていただきたい」と要請した。

足立議員はさらに、災害対応のため国が権限代行で復旧するケースが増加する中で、国交省の組織・定員の面で問題が生じていないのかを質問。水嶋智大臣官房長は「今後とも災害からの復旧・復興や防災・減災、国土強靱化など政府の重要施策を確実に実施していくため、必要な人員体制を確保するべく最大限努力する」と答えた。